



議員 27 年度決算で家庭系生ごみリサイクル

事業の委託料は、NPO法人に、生ごみバケツ回収数1万2480個として1258万3543円支払っているが、実際の回収数は9254個である。実数に基づいて支払うべきではないか。



生ごみと花を交換（藤戸田衛生センター・リサイクルフラワーセンター）

望月久晴 議員

回収数に基づいて支払うべきではないか 「厳密にバケツの数だけではない」

生ごみ回収

環境経済部長 厳密にバケツの数だけではない。全体として支払っている。

EM河川投下 効果不明

議員 環境団体が河川にEMを投入しているが、効果があるのか。

都市整備部長 あるという意見と、ないという意見があるのか。

防犯対策

防犯カメラの設置拡大で対策強化を

「設置に向けた検討を進める」

竹内正明 議員



議員 市内で女性や子供が関連する犯罪が多い

防犯カメラの設置拡大、また「暗くて怖い」と意見のある場所へ効果的な防犯灯の設置で対策の強化を。

市民生活部長 有効な設置を検討していく。

北戸田駅西口の防犯カメラ



意見がある。

議員 効果がわからないものに市が材料を提供することは、やめるべきと思うが、検討を。

大規模校の弊害は

議員 東小・東中は1800名という超大規模校になり、教員による各児童生徒一人一人の把握が難しく、学校行事や部活動等で、児童生徒一人一人の活動機会が少なくなる問題があるが、どう克服するのか。

教育部長 児童生徒が増えれば教員が増えるので、問題ない。

議員 敷地が基準の半分しかないが、問題ないのか。

教育部長 敷地の基準はなく、敷地の広さには問題ないと考える。

通学路危険箇所 対応は

議員 通学路の危険箇所についてどのように把握し対応しているか。

教育部長 毎年の定期点検、保護者や地域の方から学校への情報提供で状況を把握する。市の対応が必要な場合は校長から教育委員会に依頼し、内容に応じて関係部署で対応する。

議員 戸一小、南小の通学路でそれぞれ危険な交差点があり「歩行者信号」の設置を要望する声が多い。①上戸田3丁目②南町11の北西。以上の交差点は10年以上も前から課題となっている。関係部署で連携を強化し、状況を把握して対策を。

教育部長 要望は警察に提出しているが、今後は要望があった箇所について、これまで以上に管理・見届けを行う体制を検討していく。

一般質問

乳がん対策

高濃度乳腺にマンモグラフィと超音波検査を

「健診の際に医師に説明を依頼する」

三輪なお子 議員



議員 乳がん検診の受診率について伺う。

福祉部長 平成26年度は2842人が受診し、受診率は52.7%で県内第4位。27年度は3505人が受診し、受診率は約60%となる見込み。

議員 20代から30代の若い世代に高濃度乳腺の方が多く、マンモグラフィで見ると乳腺組織が白く写り、がんなどの腫瘍を見つけにくい。そこで、マンモグラフィに超音波を併用すると早期がんの発見率が1.5倍になるとされている。このことを受け、従来のマンモグラフィに超音波検査

を併用できないか。

福祉部長 今後、医療機関に対し、高濃度乳腺と判断される方には、検査結果を伝える際に、マンモグラフィ検査では十分ではなく、超音波検査の選択肢もある旨の説明をしていただく。

議員 健康診断年齢の引き下げを検討できないか。

福祉部長 医師会等の意見も参考に研究する。

笹目川土手沿いの管理を

議員 笹目川土手沿い、植栽されたツツジが枯れている。安全面や景観面での対策は。

都市整備部長 ツツジの補植等を検討する。また、歩行者の安全に配慮して、ツツジが植栽されている部分に擬木を使用したロープ柵を設置する予定。

自転車事故減少 対策は

議員 戸田市みんなで守ろう自転車の安全利用条例が5年の見直し時期を迎える。自転車事故の死者8割は法令違反。ルール、マナーの徹底を。

市民生活部長 「自転車安全利用対策実施計画」を条例の理念を達成するための計画と位置付け、見直し条項では顕彰や保険加入などの課題を検討していく。

がん撲滅対策の推進を

議員 受診率向上、がん患者、家族への相談体制の確立・情報提供、離職者対策の充実を。

福祉部長 受診勧奨の手法等の充実を図り、ホームページに相談窓口の情報を掲載する。がん患者を社会全体でサポートする仕組みづくりを検討していく。

七か年

タイムライン(防災行動計画)の策定と推進を

「実践的な策定を目指していく」

三浦芳一 議員



議員 「メカ・クライシス」巨大危機に

の対策を。荒川破堤に備え行政は市民の生命を守るべく、早急にタイムライン(防災行動計画)の策定と具体的な推進を図るべき。

危機管理監 防災関係機関が集い、いつ、誰が、どのように、何をするかをあらかじめ明確に



平成27年9月 関東・東北豪雨のときの鬼怒川の増水状況(国土交通省関東地方整備局ホームページより)

し、問題点や課題の研究を行い、実践的な計画の策定を目指す。

議員 豪雨により毎回浸水する低地への計画的整備と対策推進を。

上下水道部長 被害発生箇所を中心に浸透雨水ますの増設工事、雨水幹線の延伸で対処。